

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070200874		
法人名	社会福祉法人 七つの鐘		
事業所名	つりがね草		
所在地	松本市野溝東2-2-30		
自己評価作成日	平成23年11月16日	評価結果市町村受理日	平成24年4月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成23年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・隣接するデイサービスと共同にて畑作りに取り組み、利用者と一緒に収穫を楽しんでいる。地域の方々の協力のもと安心して暮らせる環境にある。・「安心の家」に置かれている為、小学生との交流があったり、隣には保育園があり、月に1回の誕生日会や行事などの参加があり、子供たちとの交流を図っている。・地域全体の防災への取り組みがしっかりしており、当施設も地域の一員として関わりをもつことができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接する保育園の庭からは園児達の元気に遊ぶ声が聞こえ、お誕生会と一緒に祝いしてもらうなど定期的に交流を持ち、玄関の愛犬に声をかけながら犬の散歩をする近所の方々や、学校帰りの小学生が「子供を守る家」として立ち寄り、トイレを借りたりお水を飲んでいたり地域住民の一員として日常的に交流が持たれている事業所である。庭の畑では、野菜を栽培すべく、近所の方が周りの草を刈ったり耕したりなどのお手伝いがある。
6月の地震のときは、地区自治会の防災会の方々がすぐに見回りに来て下さり心強かったとの事、その後の地域の防災訓練にも、入居者や職員が車いすの方も含めて参加されており、事業所の避難訓練には、近所の方や自治会の方の参加もある。
一人ひとりの力を活かすような食事の準備や片付けの共同作業、乗合いやお菜漬けなどの季節の物への取り組みや、ことのほか、日々の家庭的でおいしい食事が入居者の笑顔を引き出し、穏やかな生活に繋がっていると感じた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>管理者と職員は地域密着サービスの理念を共有して実践している。</p>	<p>法人の理念を踏まえ、事業所独自の理念「地域住民の皆さんと、」を掲げ、玄関や食堂、事務室に掲げ、毎月の全体会議や家族会などの機会を利用して、管理者は理念を共有すべく話されている。</p>	<p>状況の変化に応じての今後の事業所のあり方を模索する上で、法人の理念を活用しつつ、職員全体で事業所の理念を見直し、話し合いの場を持つ事を期待する。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>散歩の時などに地域の方々積極的に挨拶を交わし、日常的に交流を図っている。「子供を守る家」の設置により小学生との交流をしている。定期的に保育園との交流も図っている。</p>	<p>近所の方が、犬の散歩時に玄関の犬に声をかけ、入居者も散歩の時は、挨拶をかわしている。隣の保育園のお誕生会に呼ばれ、一緒にひな壇に並んだ笑顔の写真を拝見した。運動会などの行事にも参加させてもらっている。近所の小学生が下校時に立ち寄るのを入居者の方は楽しみにされ、時には一緒にお話されている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>防災訓練の際、地域の防災協力隊の方々にも参加をして頂き、実際に職員と訓練・歩行介助・支援方法を知って頂いている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催している、事業所の活動報告・防災訓練等行っている。ご利用者の状態などの心配・施設のハード面への工夫へのご指導頂きサービスの向上につなげている。</p>	<p>隔月で開催し、地域包括の職員、隣の大家さん、自治会の方、民生委員、家族、町会防災協力隊の方などが参加されている。地震の後や夜間想定避難訓練では、反省点が話し合われ、施設の改修や工夫に繋がり、サービス向上に迅速に取り組んでいる。</p>	<p>短時間でもいいので、入居者の参加も検討してほしい。離せつの事例等は最近ないそうだが、駐在所等の協力も得て、離せつ時の対応について検討することを期待する。事業所として、散歩ボランティアの募集等を提案し、サービス向上に活かすよう期待する。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>松本市より派遣相談員2名が月一回来所され、利用者との会話の機会を設けている。</p>	<p>市の介護保険担当課の方との関係は、管理者が変わられたばかりで、模索中である。地域包括の担当職員には、運営推進会議等のおりに相談している。派遣相談員は、散歩などしながら、親身に入居者の話に耳を傾けてくれている。</p>	<p>市の介護保険担当課の方の来所はないが、地震時の対応など直接、取り組みの実情をみて頂くことは重要と思われる。保険者として市の介護保険担当課の職員が来所し、認知症ケアの実情を視察される事が望まれる。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>「指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し、身体拘束ゼロを徹底している。</p>	<p>職員は法人全体の研修会に参加されており、玄関は昼間は施錠されていない。また、全体会議等に、ケアについて話し合いの場を設けて、振り返りを行っている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修により、高齢者虐待禁止関連法について理解を深め、事業所内での虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修・事業所での全体会議にて、資料を配付し、必要性を話し合う機会を設けている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には重要事項の説明を行い、十分に納得して頂けるようにしている。また、介護報酬の改定や利用料の改正時には説明を行い、理解を図っている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年に1回家族会を開催し、ご家族と第三者委員会と意見交換を行える場を設けている。参加できないご家族もおられるため、全ての要望を把握することが出来ていないこともある。</p>	<p>家族会や面会時等に入居者の変化や受診の状況等、話す様に努めている。若い職員が多いためか、要望等があまり出てこないために、方法を検討していると伺った。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回全体会議を開き、全職員が参加し意見交換を行っている。日々の生活のなかでも必要に応じて意見交換できるよう工夫している。</p>	<p>昨年からのケアプランの書式の改良に取り組んでおり、各担当者が熱心に取り組み、全職員がいろいろ意見を出し合っている。管理者は、必要に応じて、個人的な面談も実施しており、意見要望を聴く機会を設けている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の状態・職員の悩みを聞き、改善に向けている。職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の事業計画として、スキルアップを上げている。定期的に研修会も実施されているため参加をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の別グループホームと月に一度の会議を実施し、情報交換・勉強会の計画を行うことで様々な面でのサービスの向上へつなげ、行事を通しての利用者同士の交流も図り、親睦を深めている。また、隣接するデイサービスとは共同の畑を持ちたり、交流会をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の事前面接をご家庭に出向き、ニーズの把握に努めている。また、本人の心情を受け止め、不安の軽減に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接でニーズを把握し、家族の意見(意向)・困っていることなどをお聴きし、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と相談に応じ、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を持ち、信頼関係を築けるように努めている。また、経験や知恵を教えて頂き、日々の生活に活用している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は、日々の生活の様子をお話させて頂き、訪問しやすい環境作りを心掛けています。また、家族との関係が疎遠にならないよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の中には、地域の方との馴染みの関係が築いている方もおり、外部からの来訪者もオープンにしている。手紙や電話利用の支援などで継続的な関係維持を行っている。	友人、知人、親戚の方などが訪問している。手紙なども、年々、出す方が少なくなってきているが、毎年写真付きの年賀状を作成して出していると伺った。ふるさと訪問と称して、家の近くを廻る外出の機会を設けている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は情報交換により、利用者同士の関係を把握し、その日その日の個々の状態変化にも気を配るよう配慮し、関係の向上に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の特養「小倉メナー」に入所された方は、来所時に面会の機会を設け、職員・利用者同士の関係を支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月担当者会議を設け検討している。その他についてはその都度、連絡帳に記入し、朝のミーティングの場を活用して入居者全員が、その人らしく生活できるよう視点を持ち、入居者本意に対応できるよう努めている。	散歩など一対一で関わっている時に、その人の思いや意向などをお聞きできる事が多い。理念にある「その人らしい生活ができるように」、日々の記録も思い等を書き留めるよう努めており、ミーティング等でも検討している。	つぶやきノートを作成することによって、一人ひとりの思いや意向の把握の助けとなると思われるので、検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力と理解を頂き、ご本人のバックグラウンドを把握し、生活歴やライフスタイルの情報を得て、毎日の生活や言動からその人の価値観や個性を捉え尊重した対応に心掛けている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個人個人の生活パターンを尊重し、職員同士が情報を共有し、統一したケアを行うよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者会議を設け、サービスの実施と評価表の参考に個別に検討している。ご本人やご家族の要望を取り入れた計画を作成し、その都度それぞれの承認を得ている。	昨年より、ケアプランの書式、書き方の改良に取り組み、書き易く解り易い書式に一新され、職員のやる気にも繋がっている。3ヶ月ごとのモニタリングを原則とし、変化に応じてケアプランの見直しを実施し、毎月の全体会議で検討している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌には、個人個人の1日の生活状況が把握できるような記録をしている。介護記録は、日中、夜間の状態を個別に記録。出勤職員は必ず目を通し、個々の状態を把握し、情報の共有と実践に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行や重度化にあわせた支援を家族と相談しながら医師の連携を図り、行っている。食生活で重度化により栄養が行き届かない利用者には医師との連携でエンシュアの補助食を取り入れている。緊急時には柔軟な支援を行うよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の皆さんが安心して生活ができるように、町会長、民生委員、消防署、警察等の協力を得ている。地域の行事には積極的に参加。保育園との交流も継続的に実施している。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医院が地域にあり、毎月2回の往診でなじみとなり、良い関係が築かれつつある。必要時は家族との連携を図り、家族の希望するかかりつけ医にして頂き適切な医療が受けられる様支援している。</p>	<p>近くの協力医院の先生を主治医とされる方や他の先生が主治医の方もおられる。家族の方との連絡や注意事項などは、連絡ノートを利用し、職員間で、情報の共有を図っている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職場に看護師は居ないが、主治医に相談して適切な指示や助言を求めることが出来ている。隣接している関連施設のデイサービス看護職員に必要時は相談し、適切な受診や看護を受けている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院関係者との情報交換を行い、利用者やご家族に安心して頂けるよう努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化により状態に変化があるときは、その都度ご家族に報告、相談をしながら対応している。家族の意向を傾聴し特養の申し込みについてはケアマネジャーの意見書を添えて家族が直接申し込みをされている。</p>	<p>入居時に看取りまでできる体制にない事を説明し、状況の変化に応じて、家族に報告し、相談している。退所時は、家族の意向をお聞きしながら支援している。看取りを含めて事業所としての今後の方向を、検討中と伺った。</p>	<p>状況の変化に応じて、地域の関係者と共にチームで支える看取りについて、事業所ですることを職員全体での検討を期待する。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急救命法の講習を受け、マニュアルを把握し勉強会も行っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し、消防署、近隣住民の協力を得て、避難訓練・消火訓練を行っている。通報訓練や夜間呼び出し訓練も随時実施。</p>	<p>6月の地震当日は、避難訓練の予定であったが、急遽延期し、施設内の点検等を実施した。地域の防災訓練参加時の反省から、ヘルメットを人数分用意し防災頭きんも検討中である。野溝町防災会組織図に事業所への担当者が位置づけられ、事業所へ挨拶に訪問されている。事業所の夜間想定避難訓練における反省から、避難階段入り口に段差解消のスロープが設置され、消防署より階段からの避難方法も指導</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳の保持とプライバシーの保護に配慮した対応を心がけ、言葉の調子や目線、言動に注意を払いながら、さりげない対応を行っている。個人情報保護法の理解のもとで、本人のプライバシーに関しての守秘義務を徹底している。	法人全体で研修を実施している。理念の中に「入居者の皆さんの尊厳を守り、」と掲げ、全体会議等の場でも確認している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の状態に合わせた方法で、その人の思いや希望を引き出す支援をしている。一人ひとりの持てる力に合わせて自己決定の場面を多く取り入れる努力をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中での基本的な流れはあるが、その日の入居者の気分に合わせた柔軟な対応を心掛けている。日々、利用者のペースを大切に、その日の体調や気分などを把握し希望に添えるように話を伺い支援するように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着は基本的にはご本人が選択している。寒暖によって職員が支援している。理容は毎月行われている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいかを伺ったりしている。職員と一緒に食事の準備や片づけを行っている。片づけなどは限られた方になってしまうが、力を活かせるように支援している。一緒に食事をするにより会話を楽しくして頂けるよう努めている。	できることは減ってきているが、皮むきなど持てる力を活かせる様に配慮しながら、支援している。個々に合わせ、魚の骨を取り除く人と残す人など配慮して配膳されていた。季節の漬け物や行事食(七夕、母の日、おはぎなど)、栗拾いのときは弁当や外食など、食事が楽しみとなるよう工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	粥食希望ほか栄養バランス等も考慮し、本人の好みで食べる量が確保される様支援している。水分摂取には十分な注意を払い、水分補給をいろいろな形で提供している。極端に摂取が落ちた際は速やかに医師に相談し栄養補助や点滴などで対処している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の義歯洗浄やうがいを出来る範囲で行って頂き、最低限の介助で清潔保持をしている。自力で出来る方へも、特に夜は仕上げ磨きなどを行い、週2回に義歯消毒も行っている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>現在はオムツ利用者はゼロである。トイレでの排泄を支援しリハパン使用者は陰部、臀部の清拭をご本人あるいは職員が介助して清潔保持に努めている。</p>	<p>トイレでの排泄を心がけて支援している。夜間は1名、パットの交換をしている。朝は、パット等の確認も兼ねて、陰部臀部の清拭を職員と一緒に支援している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食物繊維の多い野菜を多く取り入れ、水分摂取量の把握、食事内容の工夫を行っている。時々薬(下剤)などを使用する時もあるが、散歩などによる運動も行い、普段の排泄状況を見ながら使用している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>本人の体調や希望を聴き、入浴日を決めている。個別対応により落ち着いてゆっくり入浴できるような環境を心掛けている。</p>	<p>週に2回は入浴できるように支援している。嫌がる方には、時間を変えたりタイミングをみて声がけしている。ゆず湯や入浴剤などで楽しみとなる工夫もしている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>起床・就寝時間はそれぞれで行われている。日中も自由に休息されている。日中の活動量の確保や散歩で生活リズムを整え、夜間の安眠につなげている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や目的、副作用、注意事項のファイルは個人毎に整理されている。勉強会にも取り上げ、服薬内容や作用のリストを職員に配布している。薬の変更時は担当者から連絡帳等で連携をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあった活動をして頂き、自分で出来ることは自分で行って頂くように支援している。本人の希望を把握し、ご家族にも協力してもらい出掛けられるように努めている。飼い犬との触れ合いが気分転換になっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体力に合わせた対応で心身の活性化や生活リズムを整えるため、日常的に散歩を実施しているが、全体的に利用者のレベル低下もあり、以前よりは散歩の機会が減っている。定期的な外出、外食が行われている。	散歩は、近くのお寺やお宮などに出かけている。玄関の外で飼っている犬に会いにきた子供の声で、玄関まで出て行く入居者もいる。入居者のADLの低下により、散歩の機会は減っているが、月に1回は外出や外食にでかけるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は事務所で預かっているが、本人の意向や家族の希望で小遣いを所持されている方もいる。また、希望に応じて使えるよう、もしくは職員が購入するようにしている。毎月、家族へ金銭出納の報告をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出を受け、手紙の投函や電話の取り次ぎを支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先は、プランターに花を植え、玄関や談話室には季節の花を飾り、安らぎと居心地のよい空間になるようにしている。整理整頓に心がけ、生活感も出すよう配慮している。	昼間過ごす居間からは、隣の保育園の庭や講堂で元気に遊ぶ子供の姿が見え、窓からは声も聞こえる。6月の地震の後、高い所にあった掛け時計など下に移動し、安全に配慮した。トイレの張り紙は、大きく解り易い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル、椅子等さまざまなスペースを提供し、好きなように好きなところで過ごせるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのダンス、茶ダンス、机や椅子、仏壇等を持ち込まれている方もいる。部屋には家族の写真、行事の写真等を飾ってある。入り口にはプライバシー保護のため、のれんを設置し安心出来る配慮をしている。	部屋は、保育園に面した側に位置し、陽当たりもよく、明るい。居室は、押し入れ等収納場所が広いので、洋服等は収納されている。家族の写真やそれぞれの写真、思い出の品物、製作された飾りなどが、壁や持ち込まれた棚の上に飾られていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	注意が必要な場合は、貼り紙などを利用し利用者にも伝わるように工夫している。本人の持てる能力の把握に努めている。不安にならないように、トイレには表示を居室には小さく名前を表示している。		